

## 国土交通大臣賞

「事業所・地方公共団体等」分野

受賞者名

株式会社熊谷組 関西支店 建築事業部建築部  
(仮称)RIC ウエストコート7番街2期新築工事 (AB工区)  
積水ハウス株式会社 大阪マンション事業部

所在地

兵庫県神戸市

受賞テーマ

大規模なマンション現場における発注者と連携した3R活動・ゼロエミッションへの挑戦

大規模なマンションの建設現場においては、躯体工事が大規模になることにより型枠残材等が多く発生することに加えて、各住戸が細かく分かれていることにより、内装工事が煩雑となり、そこから発生する廃棄物の量が大幅に多くなる。これらは混合廃棄物として排出されることが多い。その結果、最終処分場への大きな負荷となっている。

同現場では、その混合廃棄物やその他の廃棄物の発生を徹底して減らすため、< (1) ゼロエミッション体制の構築 > < (2) 工事着手前のゼロエミッション計画 > < (3) 計画に基づいた実践、監視、改善 > のPDC Aサイクルによる監視、改善を行った。

### (1) ゼロエミッション体制の構築

この現場では発注者の方針により、設計段階よりプレカットやハーフスラブPCの活用を採用した。また現場では、多数の協力会社が関わっており、それら協力会社の参画は混合廃棄物の削減に重要である。同現場では、施工前の段階において協力会社が自主的に混合廃棄物を減らすことを目指し、「環境班」を編成した。

### (2) 工事着手前のゼロエミッション計画

同現場の計画策定において、同社社員に加えて、「発注者」や「職長会」が参画し、類似の他工事実績を参考に、さらに挑戦的な目標を掲げた。その目標の達成を目指して、3Rの創意工夫について協議を重ねた。また、設計段階からの廃棄物の削減対策も計画に盛り込んだ。(ハーフスラブPC工法の採用など)



分岐点のプレカットによる工場加工



スラブにPC板を使用することにより、型枠を使用しない

### (3) 計画に基づいた実践、監視、改善

日々の分別活動については職長会の「環境班」が中心となり作業ごとに実践、監視、改善を重ねた。監視は、関係者全員が現状認識できるよう、情報共有し、次の改善アクションに繋がるようにした。

以上の取り組みにより、大規模なマンション現場において挑戦的なゼロエミッション目標値「混合廃棄物排出量494m<sup>3</sup>以下」に対して、「混合廃棄物排出量310m<sup>3</sup>」の実績を得て達成することができた。

一般社団法人日本建設業連合会の発表している建築系混合廃棄物の原単位調査報告書(平成24年度版)の原単位で算定すると774m<sup>3</sup>排出量となる。同現場では、約60%の大幅な削減をした。